令和2年度入学生用カリキュラムマップ 【建築学研究科 景観建築学専攻　修士課程】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					A. 高い知性				B. 善美な情操		C. 高雅な徳性	D. 高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合	
					A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	C	D-1	D-2
20MLAR1110	建築実務インターンシップⅠ	1・2	建築設計・工事監理の実務実習により、設計事務所で行われる様々な建築設計・工事監理関連の実務を体験し、建築設計や工事監理の実務内容およびそのプロセス、構造・設備設計者などと協働した建築総合化の手法など、建築設計・工事監理実務の全体像を理解することを目的とする。	建築設計・工事監理、あるいは建築施工管理の実務にかかわる実践的知識を理解することにより、社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力を身につけ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成する。		○	○	○			◎	○	○
20MLAR2110	建築実務インターンシップⅡ	1・2	建築設計・工事監理の実務実習により、設計事務所で行われる様々な建築設計・工事監理関連の実務を体験し、建築設計や工事監理の実務内容およびそのプロセス、構造・設備設計者等と協働した建築総合化の手法等、建築設計・工事監理実務の全体像をより深く理解することを目的とする。	建築設計・工事監理、あるいは建築施工管理の実務にかかわる実践的知識を理解することにより、社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力を身につけ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成する。		○	○	○			◎	○	○
20MLAR1100	景観実務インターンシップ	1・2	景観設計や工事監理等の実務実習により、様々な景観設計・工事監理関連の実務を体験し、景観設計や工事監理の実務内容およびそのプロセス、他の専門家と協働した総合化の手法等、景観設計・工事監理実務の全体像を理解することを目的とする。	景観設計・工事監理、施工管理の実務にかかわる実践的知識を理解することにより、社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力を身につけ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成する。				○		○	◎	○	○
20MLAR2111	建築設計実務	2	学内外の実案件を対象にした建築設計の実務実習により、建築設計・工事監理関連の実務を長期にわたって体験する。教員の指導のもと、建築設計や工事監理の実務内容およびそのプロセス、構造・設備設計者や施工者等の多くの専門家との協働の仕方や施工の状況を実地で学び修得することを目的とする。	建築設計・工事監理の実務にかかわる実践的知識を修得することにより、コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらの下で、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を身につける。これにより、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する実践的能力を修得する。		○	○	◎		○	○	◎	◎
20MLAR1211	景観建築設計総合演習A	1	原寸大の空間を共同で制作し、その原初的・直接的・身体的な体験により、図面や模型のみによる図式的、操作的な設計方法の矛盾を理解する。その理解に基づき、より高度で実践的な設計課題に取り組むことを目的とする。これにより、今後の実務実習において最低限必要となる実践的な設計能力を伸ばす。	住環境を実在するモノと空間からなる存在として、具体的に設計する建築・景観設計の演習を通して、「真」「善」「美」を互いに総合する能力を修得し、真に人間的でかつ自然環境と共生した住環境を創生する実践的能力を培う。	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○
20MLAR1212	景観建築設計総合演習B	1	基本構想から基本計画、基本設計に至る、プロセスを重視した建築・景観設計に取り組むことを目的とする。これにより、今後の実務実習等において必要となる実践的な設計能力を伸ばす。	プロセスを重視した課題による建築・景観設計の演習を通して、「真」「善」「美」を互いに総合する能力を修得し、真に人間的でかつ自然環境と共生した住環境を創生する実践的能力をより向上させる。	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					A. 高い知性				B. 善美な情操		C. 高雅な徳性	D. 高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合	
					A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	C	D-1	D-2
20MLAR2212	修　士　設　計	2	５年半で修得した「真」「善」「美」の集大成として、各自がテーマを設定し、それに基づく研究を進め、得られた新たな知見を空間構成として総合化し、その成果を建築・景観設計にまとめプレゼンテーションする。これにより修士課程修了後、建築・景観設計技術者として、社会で自律的に行動し、活躍する上で必要な高度知的専門職能を確立することを目的とする。	「真」「善」「美」を互いに総合し、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する実践的能力を修得する。また人間的な住環境の形成のために、継続的に学習できる能力を身につけ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成する。	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	○
20MLAR2202	修　士　論　文	2	５年半で修得した「真」「善」「美」の集大成として、各自がテーマを設定し、それに基づく研究を進め、得られた新たな知見に基づき論的展開を進め、その成果を学術論文にまとめプレゼンテーションする。これにより修士課程修了後、建築・景観設計技術者として、あるいは専門家、研究者として自律的に行動し、活躍する上で必要な高度知的専門職能を確立することを目的とする。	「真」「善」「美」を互いに総合し、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生するために重要な問題解決能力を実践的に修得する。また人間的な住環境の形成のために、継続的に学習できる能力を身につけ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成する。	◎	○	○	○		○	◎	◎	
20MLAR1322	建築家の職能と倫理	1	実務実習において実践的な設計実務を修得する上で重要な、一人の人格としての建築家の職能、社会的役割、責任、倫理、建築家を取り巻く社会問題に関する実践的な知識・能力を修得することを目的とする。	建築家を取り巻く社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力を修得し、社会的義務と責任を重んじ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成する。							◎		
20MLAR1324	建築計画マネジメント論	1	実務実習において実践的な設計実務を修得する上で重要な、建築や都市の計画・開発から設計・工事監理に至る幅広い業務に携わる専門家として必要な倫理と実務的な業務の流れを学ぶ。設計・工事監理業務を適正かつ円滑に進めるための、幅広くかつ実践的なマネジメント知識・能力を修得することを目的とする。	コスト、スケジュールなど様々な制約条件と、建築設計・工事監理を取り巻く社会の仕組みや現代社会の問題点を理解した上で、自律的活動ができる職能人として、真に人間的な住環境を創生する実践的能力を修得する。				◎			◎	○	○
20MLAR1361	建築構造設計論Ａ	1	建築設計における構造計画・構造設計は、建築の形態や空間に大きな影響を与えるとともに、建築の物理的存在を保証するものであり、その技術は建築技術者の素養として必須となっている。実務上における構造設計の体系や規範を学習し、建築設計における構造設計の重要性と、その基礎的技術を実践的に修得することを目的とする。	建築の安全性を確保するために重要な、構造設計にかかわる基礎的技術を積極的に吸収する。吸収した技術を踏まえて、「強」の視点から、空間を構成する実践的能力を修得する。		◎							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					A. 高い知性				B. 善美な情操		C. 高雅な徳性	D. 高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合	
					A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	C	D-1	D-2
20MLAR1362	建築構造設計論Ｂ	1	より高度な構造システムや構造設計の実例を通して、現代建築に用いられている先端的な構造システムや構造設計を実践的に学ぶ。これにより、現代建築における構造設計の重要性と、その実践的技術を修得することを目的とする。	建築の安全性を確保するために重要な、構造設計にかかわる先端的技術を積極的に吸収する。吸収した技術を踏まえて、「強」の視点から、空間を構成する実践的能力をより向上させる。		◎							
20MLAR1341	建築環境設備設計論Ａ	1	建築設計における設備設計および環境計画の実例を通して、地球環境問題の解決と快適な生活環境の確保において、設備設計、環境計画が果たしている役割を学ぶ。これにより、今後の実務実習の意義を高める上で重要な、建築設計における設備設計や環境計画の重要性と、これらの基礎的技術を実践的に修得することを目的とする。	建築の機能性、快適性を確保するために重要な、設備設計と環境計画にかかわる基礎的技術を積極的に吸収する。吸収した技術を踏まえて、地球環境問題に配慮しつつ、最適な空間を構成する実践的能力を修得する。			◎			○			
20MLAR1342	建築環境設備設計論Ｂ	1	最新の建築設備や省エネルギー技術を取り入れた建築の実例を通して、地球環境問題の解決と快適な生活環境の確保という２つの問題を、設備設計、環境計画によって解決する実践的手法を学ぶ。これにより、低炭素時代における設備設計や環境計画の重要性と、これらの実践的技術を修得することを目的とする。	建築の機能性、快適性を確保するために重要な、設備設計と環境計画にかかわる先端的技術を積極的に吸収する。吸収した技術を踏まえて、地球環境問題に配慮しつつ、最適な空間を構成する実践的能力をより向上させる。			◎			○			
20MLAR1381	建築施工管理論	1	建築生産の流れや契約、積算、生産計画の立案、各工事の施工や施工管理の技術について実践的に学習する。適切な設計・施工計画を行う能力を身につけ、是正・予防措置についても理解する。これにより、施工管理等の実務実習に参加する上で重要な、実践的知識をあらかじめ修得することを目的とする。	コスト、スケジュールなど、建築生産、施工プロセスにおける様々な制約条件をより実践的に理解する。また自律的活動ができる職能人として、適切な設計・施工計画を進めることができる実践的能力を修得する。				◎			○		
20MLAR1391	建築法規特論	1	建築・都市政策の最前線を受け持つとも言える建築基準法について、地域、まちづくりのための法規定を中心に、都市計画法や景観法等の各関係法令との連携も含めて実践的に学習する。これにより、実務実習の意義を高める上で重要な、建築法規に関する実践的知識をあらかじめ修得することを目的とする。	建築基準法および関係法令の実践的内容を修得する。その意義を踏まえて最適な空間を構成することにより、地域の歴史的、文化的価値を理解しつつ、社会的義務と責任を重んじ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成する。				○		○	◎		
20MLAR1401	景観映像情報特論Ａ	1	学士課程より高度でかつ先端的な映像情報技術を修得するとともに、これらの技術を総合した高度な景観シミュレーションを行う能力を修得することを目的とする。	高度でかつ先端的な映像情報技術とその活用方法を身につけ、建築・景観設計における問題解決や提案に活用できる実践的能力を培う。	◎							○	
20MLAR1402	景観映像情報特論Ｂ	1	学士課程より高度でかつ先端的な映像情報技術を修得するとともに、これらの技術を総合した高度な都市景観の分析を行う能力を修得することを目的とする。	高度でかつ先端的な映像情報技術とその活用方法を身につけ、建築・景観設計における問題解決や提案に活用できる実践的能力をより向上させる。	◎							○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					A. 高い知性				B. 善美な情操		C. 高雅な徳性	D. 高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合	
					A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	C	D-1	D-2
20MLAR1442	景観建築特論	1	先端的な景観建築の事例研究等を通して、景観建築の現代的な役割を理解し、具体的な景観建築の設計に展開するための知見を得ることを目的とする。	景観建築がもつ美的、歴史的、文化的価値と、国際社会、地球環境とのかかわりを理解するために必要な実践的知識を修得し、真に人間的な住環境を創生する実践的能力を修得する。						◎	○	○	○
20MLAR2431	景観生態学特論	2	生態系機能を発揮させ続けていくために必要な地域計画や土地利用施策に、科学的・論理的基盤を提供する学問である景観生態学について、その理論と研究手法について理解を深め、地域計画や土地利用へ応用することを目的とする。	景観生態学に基づき、適切な地域計画や土地利用を理解する能力を身につけることにより、自然との共生の視点から住環境を創生する実践的能力を向上させる。							◎	○	
20MLAR1451	建築都市緑化特論	1	環境に配慮した最新の緑化技術について事例に即して学び、景観建築設計に活用できるようにすることを目的とする。さらに環境配慮型の緑化を目指した栽培試験を行い、建築・都市緑化に適した植物の選択および低投入・省力型の管理法を検討する。	建築・都市緑化に適した植物やそれを用いた緑化技術を学ぶことにより、自然との共生の視点から住環境を創生する実践的能力を修得する。				○			◎	○	
20MLAR1422	景観緑地計画特論	1	景観建築分野における基本的な緑化計画の理論や手法について学ぶとともに、基本構想や基本計画等、各計画レベルにおける具体的な計画技術の修得を図ることを目的とする。	緑化計画の理論や手法、および具体的な計画技術を修得することにより、真に人間的な住環境を創生する実践的能力を修得する。			◎	○			○	○	○
20MLAR2461	景観緑化工学特論	2	森林の再生技術や、緑化工法に関する理論や技術、さらに緑地が持つ防災機能や環境機能について学び、景観建築設計に活用できるようにすることを目的とする。また、建築・都市緑化への応用を念頭に、緑の療法的効果を取り入れた植栽を計画、作成、管理する。	安全、快適で自然と共生した建築・都市緑化を行うために重要な、緑化工学にかかわる基礎的・先端的技術を積極的に吸収するとともに、吸収した技術を踏まえて空間を構成する実践的能力を修得する。		◎	○				○	○	
20MLAR1424	景観計画論	1	国内外の景観計画に関する歴史を概観し、その思想と展開手法、ならびに実現された景観について理解するとともに、景観形成史の流れを把握する。そのうえで、計画立案に先立つ基礎調査として必要な各項目の内容について理解することを目的とする。	自然との共生の視点を持ちつつ、機能的で文化的な景観を計画するために必要な実践的知識を修得し、真に人間的な住環境を創生するために必要な実践的知識を修得する。			◎			○		○	
20MLAR2421	景観設計論	2	景観建築において、構想や計画を具現化するために必要不可欠な、基本設計や実施設計についての理論や手法の習得を目的とする。	自然との共生の視点を持ちつつ、機能的で文化的な景観を設計するために必要な実践的知識を修得し、真に人間的な住環境を創生するために必要な実践的知識をより向上させる。			○			○		◎	
20MLAR1501	景観建築フィールドワークＶＡ	1	建築物や町並み、公園、庭園、工事現場等の見学、あるいは講演会への参加を通じて、修士１年前期の演習や講義により学習する知識や技術についてより具体的、実践的に学ぶ。またレポートの作成等を通して、見学対象をより深く調査、理解、考察する。	修士１年前期の演習や講義等で学んだ知識をより具体的に理解、修得するとともに、景観建築がもつ美的、歴史的、文化的価値や自然環境、地球環境問題との関わりなどを理解する。また、継続的に学習できる能力を身につけ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成することを目指す。		○	○	○		○	◎	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					A. 高い知性				B. 善美な情操		C. 高雅な徳性	D. 高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合	
					A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	C	D-1	D-2
20MLAR1502	景観建築フィールドワークⅤB	1	建築物や町並み、公園、庭園、工事現場等の見学、あるいは講演会への参加を通じて、修士１年後期の演習や講義により学習する知識や技術についてより具体的、実践的に学ぶ。またレポートの作成等を通して、見学対象をより深く調査、理解、考察する。	修士１年後期の演習や講義等で学んだ知識をより具体的に理解、修得するとともに、景観建築がもつ美的、歴史的、文化的価値や自然環境、地球環境問題との関わりなどを理解する。また、継続的に学習できる能力を身につけ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成することを目指す。		○	○	○		○	◎	○	
20MLAR2501	景観建築フィールドワークⅥ	2	建築物や町並み、公園、庭園、工事現場等の見学、あるいは講演会への参加を通じて、修士２年の実務実習や講義により学習する知識や技術についてより具体的、実践的に学ぶ。またレポートの作成等を通して、見学対象をより深く調査、理解、考察する。	修士２年の実務や講義等で学んだ知識をより具体的に理解、修得するとともに、景観建築がもつ美的、歴史的、文化的価値や自然環境、地球環境問題との関わりなどを理解する。また、継続的に学習できる能力を身につけ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成することを目指す。		○	○	○		○	◎	○	
20MLAR1500	海外保存修復実習	1	海外において、保存修復関連の実習を体験し、建築保存修復の内容およびそのプロセス、研究者・設計者・技能者等が協働した保存修復の手法等を理解することを目的とする。	建築保存修復にかかわる実践的知識を理解することにより、社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力を身につけ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成する。				○		○	◎	○	
20MLAR1001	トルコ語	1	入門レベルのトルコ語文法の習得を目的とする。具体的には、基礎的な単語を覚えて、簡単な文をある程度自由に作ることができるようにする。また読む・聞く・話す・書くといった４技能をバランスよく学習する。	トルコ語を読み、書き、聞き、話すための基礎的能力を身につける。これにより、トルコ語を理解し、使うために必要な実践的能力を修得する。	◎								